

ふくしま

2018. 3. 27

復興支援フォーラムニュース

No. 127

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

【第125回ふくしま復興支援フォーラム/2018年3月27日・A0Z 大活動室1】

「被災地からの脱却を目指して」

平成30年3月27日(火) 川内村長 遠藤雄幸

田舎の原風景を残す当村は、震災・原発事故以来「被災地」と呼ばれる地域となりました。住民は避難を余儀なくされ不安な生活を経験し、先行きが見えない中、漠然とした喪失感と閉塞感で心身ともに極度のストレスを感じてきました。さらに見えない放射能は、戻る人・戻らない人、20^{キロ}ラインを境に補償・賠償問題で住民感情も複雑にし、人の生き方や判断にもずけずけと土足で入り込み、住民の心も体もズタズタにしていきました。

それでもかけがえのない「ふるさと」を取り戻すため、見えない敵と戦い続けてきました。平成28年6月に一部残っていた旧居住制限区域が解除され、村の避難指示区域は全てなくなりましたが、解除されたからといってダイナミックに変わるものではなく、あらためて戻るオペレーションの難しさを感じています。

全ての地域において生活上の制限がなくなり、震災前の極めて当たり前の生活、いとおいしい日常、村のアイデンティティを取り戻す、その一歩を帰村宣言以来前に進めてきました。では、この7年余りの時間は失われた時間だったのかというと、そうではないと思っています。自分の故郷や家族、隣人友人のあり様、人間としての尊厳について、思いを深める貴重な時間だったのかもしれません。

現在の帰村者は81%、約2,200名。この数字は本来25年以上先の推定人口であり、一気に20年後の未来を目の前に突きつけられていることとなります。加えて、子どもを持つ世帯など若い世帯が避難先に定着しつつあり、帰還した多くの世帯は高齢者が多く、人口減少と併せ少子高齢化が一気に進んでいます。

川内村の未来は自分たちでコントロールするもの、8年目を迎えた今、可能性を信じ新たな気持ちで一歩を踏み出していきたいと考えています。復興は一言で言うならば、生きがいやプライドを取り戻すこと、いつまでも被害者意識だけでは問題の解決になりません。被災地という不幸に甘んじることなく、一日も早く「被災地」からの脱却を図り、新しい川内村を創造していきたいと考えています。



<第124回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

3月11日（日）、東日本大震災からまる7年の日ですが、福島市AOZで第124回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

ふたば地域サポートセンター準備室ふたすけ室長の鈴木亮氏（東日本大震災支援全国ネットワーク福島担当）から、「浜通りの地域づくり、復興八年目のロードマップを描く～地域の底力を共に再生するためにできる事」について報告があった。日曜日の夕方ですが、21人の市民が参加し、積極的に質疑応答に参加しました。また東京などとネットワークで結んで、ご意見もいただきました。同会場で、文書提出されたご意見・ご感想は以下の通りです。参考にしてください。

~~~~~

★ イノベーション・コースト構想の言葉しか聞いたことがなく、具体的なことは何も分かりませんでした。今日の講演では、国や県がイノベーション・コースト構想を推進する一方で、地元の自治組織やNGOなどの民間の力が育っていかなければならないということを知りましたし、エネルギーについても考えなければならぬと思いました。(T.K)

★ 震災後7年、かなりの方は、生活の基盤が出来ていると思います。しかし、今も仮設住宅で生活している高齢者は、収入はなく、途方にくれている方がいます。復興公営住宅で安心して暮らせるようにしてください。(M.T)

★ 残念ながら原発災害の本質に肉薄できなかった。エネルギー政策、政府と市民との協働の具体的なシナリオ見えず。イノベーション・コースト構想はどう軌道修正するのか？(S.H)

★ 「顔の見える関係に風評なし」って、その通りですね。海外の風評被害もうそうですが、日本でも西日本の方が風評被害が大きいですね。交流がないところ、遠いところ、見えないところでは、風評被害の克服は難しいですね。(S.K)

★ #124フォーラムを開催して頂き有難うございます。ロードマップ＝復興長期ビジョンに相当し、現地では2～3年の予測も困難との事良くわかりました。しかし、大変だからとビジョンづくりをあきらめてはいけないと思います（2030年、2050年と福島・東北、日本はどうあって欲しいか策定すべき）。私達は阪神淡路大震災を体験し23年経ちました。そこからの教訓、①ビジョン無し、②人・物の流れは10年、20年、30年後が読めてない、③後継者対策は、必ず必要、を20～30年後のロードマップ作りに生かすべきと考えます。(T.S)

★ 日本環境会議で、双葉町と連携した調査研究を予定しています。とくにコミュニティ再生支援の点で役立ちました。(H.I)

★ 8年目の3.11の日にありがとうございました。今年は、報道が少ないように思いました。福島から課題を整理し、発信したいものです。(M.S)

★ 民間の支援機関の一員として、震災被災者の方々を、日々支援されている姿に感激しました。ご講演に感謝申し上げます。(K.F)

★ 2012年より5年半も JCN の福島担当として、様々な民間レベルの復興支援活動を踏まえた報告、ありがとうございました。具体的な取り組みを伺う時間がなかったのは残念ですが、民間レベルの取り組みの拡大が、国や県をも動かすのだと思います。(T.K)

★ NPOの復興ロードマップと政府のロードマップの協議が、もっとできればと思いました。(G.T)

★ ふたば地域・避難自治体の現況を概観でき、有意義でした。(S.S)

★ 仮設・借り上げ住宅(家賃ゼロ)に未だに15,000人。国・復興庁は予算が少なくなっていることを理由に、復興事業を縮小しようとしており、ほとんど強制的に、帰還を計ろうとしているように思える。きっと東京オリンピック前に復興は済んだことになる(しようとしている)のではないかと思う。(S.S)

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第124回ふくしま復興支援フォーラム(3月11日)の会場で、カンパ4,000円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)

【会計報告】(2018.3.25現在)

第1期(～2015.9)累計 収入214,746円 支出207,640円 残(繰越)7,106円

第2期(2016.10.27～)

|                      |          |                   |
|----------------------|----------|-------------------|
| 「収入」(2018.2.28までの累計) | 102,756円 | (第1期 繰越 7,106円含む) |
| 会場カンパ(2018.3.11)     | 4,000円   |                   |
| 計                    | 106,756円 |                   |

|                  |            |
|------------------|------------|
| 「支出」2017.11.30まで | 累計 82,940円 |
| 計                | 82,940円    |

|                     |         |
|---------------------|---------|
| 「残金(現在高)」 2018.3.25 | 23,816円 |
|---------------------|---------|



<予告> 第126回 (2018年4月12日 (木) 18時30分～20時30分)

テーマ 「トリチウム汚染水問題～住民目線から海洋放出案と水蒸気放出案の是非を問う」

報告者 野中俊吉 氏 (コープふくしま専務理事、  
経産省 汚染水処理対策員会 トリチウムタスクフォース委員)

会 場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」  
大活動室1 MAXふくしま4F (福島市曾根田町1-18)

<予告> 第127回 (2018年4月26日 (木) 18時30分～20時30分)

テーマ 「双葉郡の医療体制と課題」

報告者 堀川 章仁 氏 (医師、双葉郡医師会長)

会 場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」  
大活動室1 MAXふくしま4F (福島市曾根田町1-18)